



冬至の
ゆず湯

大戦終結の前日・そして当日

四地区の市民・

1100人以上の死者を、

私たちは

どう考えたらよいのだろうか

◆1945年7月14日

岩手・釜石艦砲射撃

死者 515人

◆1945年7月14・15日

青森・北海道空襲

関門連絡船8隻沈没

死者 312名

◆1945年7月15日

北海道・室蘭艦砲射撃

死者 436人

茨城・日立艦砲射撃

死者 395人

◆1945年7月19日

福井空襲

死者 1,576人

千葉・銚子空襲

死傷者 1,181人

◆1945年7月25日

大分・保戸島空襲

小学校に爆弾が投下されて児童と教師など

127人が死亡

◆1945年7月26日

日本に無条件降伏を求めるポツダム宣言

発表・鈴木貫太郎内閣はこれを「黙殺」する

松山大空襲

死者およそ 300人

山口・徳山空襲

死者 482人

◆1945年7月28日

愛知・一宮空襲

死者 727人

◆青森大空襲

死者およそ 1,000人

◆1945年8月1日

◆新潟・長岡空襲

死者 1,488人

富山大空襲

死者 2,275人。地方都市空襲では最大規模となった

◆1945年8月2日

八王子大空襲

死者 450名

◆1945年8月5日

湯の花トンネル列車銃撃

死者 52名

◆1945年8月5日

群馬・前橋、高崎空襲

死傷者 1,323人

◆1945年8月6日

広島市への原爆投下

死者 14万人(1945年末まで)

◆1945年8月7日

◆愛知・豊川空襲

死者 2,477人

◆1945年8月8日

福岡・八幡大空襲

死者 2,952人

◆1945年8月8日

ソ連、対日宣戦布告

対日参戦

◆1945年8月9日

ソ連、満州への侵攻

◆1945年8月9日

長崎市への原爆投下

死者 7万人(1945年末まで)

◆1945年8月9日

岩手・釜石艦砲射撃 2回目

死者 300人以上

◆1945年8月13日

艦載機による長野空襲 死者 47名

◆1945年8月14日

山口・岩国大空襲 死者 500人以上

◆1945年8月14・15日

埼玉・熊谷空襲、群馬・伊勢崎空襲

死者 300人以上

秋田・土崎空襲

死者 300人以上

【気づいたこと・感じたこと】



高齢者医療費を見直し、 若者の保険料を低く

おさえるという怖い発言

今般の衆議院選挙の公示を前にした10月12日、日本記者クラブ主催の7政党首討論が行われた。そこで安全保障問題、少子高齢化から社会保障問題などが取り上げられたが、そのなかでの国民民主党の玉木雄一郎代表の発言がある。その主張は「社会保障の保険料を下げるためには高齢者医療、とくに終末期医療の見直し尊厳死の法制化も含めて医療給付を抑えこむ必要がある。そして若い人の社会保険料を抑え、消費を活性化し、好循環と賃金上昇を生み出す」という旨の発言であった。

つまり「社会保障の保険料が高い。それを引き下げるには高齢者医療、とりわけ終末期の医療費を抑え、縮小をすることが必要だ。そのことによって若い層の保険料の抑えることができるというものである。それは選挙期間中、「手取り額を増やそう。そして経済を活性化しよう」と声高に叫んだ発想の一つであった。それに対し「姥捨山だ」、「優生思想だ」として玉木代表の発言を批判する意見が溢れた。

しかしこの発言は「言い間違えた」というレベルのものではない。「ここまで多くの批判を受けるとは思っていなかったのだろう。玉木代表は慌てて「尊厳死の法制化は医療費削減のためにやるので、ありません。本人の自己決定権の問題なので、

重点政策の中でも社会保険料削減の項目ではなく、あえて人づくりの項目に位置づけています」とのコメントを述べ訂正をしている。

もちろん「文字通り人の尊厳を守るための究極の選択肢としての尊厳死の議論は否定しません。しかし社会保障費(医療費)を下げる為に尊厳死を導入すると言っているのは極めて恐ろしい発言である。しかし、いちど口から出てしまった言葉は無かったことにはできない。それが政治家、しかも公党の党首が発する言葉に対する責任であろう。

今般の国民民主党の大きな躍進は20代、あるいは30代という若い皆さんに支えられたとの分析が報道されている。その年代の支援がその点にあったと思いたくはないが、「手取り額を増やそう」というキャッチフレーズに結びついたものとするなら若い層のこれからの生き方に大きな誤りを与えたと言っても過言ではない。

それは若い彼ら、彼女らも、いずれは古い世代となり、その時代の若者に支えられるからである。

呼びかけ・広げる層はどこなのか

衆議院選挙の結果はマスコミの事前報道のように、自・公が過半数割れとなりました。「政治と金」の問題はかなり大きな問題として国民が考えていることを示したものでしょう。今回の結果は、毎日、報道されているように国民民主党が政局をリードしているように見えます。確かに自・公政権が過半数を取れなく、野党を取り込まなければ国会は機能しなくなることですから、

当然どこかと協力関係を持つこととなります。問題は野党第一党となった立憲の政治的立ち位置です。

国民民主党が自・公と手を組めば、過半数を取れることとなりますから、かなりの分野で協力関係が進むことになるでしょう。しかし、他の野党としてもそのまま見ていることにはならないでしょうから、それぞれの政策実現のためには、自・公との関係を考えながら取り組むことになるでしょう。今問題として取り上げている「103万円壁」も国民民主党が言うようにそんなに簡単ではなさそうですから結果はどうなるのでしょうか。少しは前進するでしょうが、国民民主党の主張を丸呑みとはいかないでしょう。

立憲が次の参議院選挙を展望しどのように野党の結集を図るのか、今回の衆議院選挙の結果をどのように総括するのか、政権交代を目指すのであれば、かなり慎重にこれからの政治に取り組まなければ、衆議院選挙と同じように各党それぞれ取り組みになることは目に見えていると思います。国民の期待はどこにあるのか各党とも真剣に考えてほしいものだと思います。

社民党も次の参議院選挙は政党要件がかかった選挙になります。今回と同じような結果にすることはできません。日頃OB・Gニュースが提起しているように社民党が依拠すべき、あるいは、主として呼びかけ、広げる層はどこなのか。戦略的な方針を持つべきだと思います。これまでと同じようなことをやっているとしたら衆議院選挙と同じことになるのではないかと心配します。

私たちの総支部の運動も、中央が作った「比例区は社民党」という選挙ポスターを、機械的に割

り振りをしました。私たちの支部は、新社会党と合同で街頭宣伝を選挙期間中各駅で朝と夕行いました。党员として、支部としてごく当たり前のことです。そして党员は友人、知人に電話や、信書による要請を取り組みました。

衆議院の選挙区では候補者が立てきれなく、新社会党の仲間と協議し共産党候補を推薦しました。これも支部としての取り組みです。この反自民共闘の取り組みも、結局は社民党としての組織的機能は全く果たせないまま選挙は終わりました。これでは今の社民党の壊滅的危機を克服し党を再建しようとする姿勢も方針も全く生まれません。それが今の私たちの運動の実態です。

私も81歳になり、右足に障害が出て10分ぐらい歩くと感覚がなくなり、続けて長くたつていることができなくなりました。週に2回整体で治療していますが思うように行動できません。残念ですが行動の限界を感じます。後継者づくりにも取り組んでいいますがなかなか進みません。次の区議会議員選挙には何としても候補者を立てようとして取り組んでいます。なかなか難しいです。しかし、仲間と協議をしながら最後の仕事としてがんばります。

(東京・一党员的の寄稿)

ある農家の読者からの報告

「コメ不足・コメ高」

農業の実態について

ようやく稲刈りも終了しました。今年の会津の稲刈り、特にコシヒカリは収穫時に倒伏した田んぼがほとんどで、刈取りに時間がかかったり、コンバインが詰まったり、チェーンが破損したりと

散々でした。収量もくず米が多く一俵(90kg)あたり会津のコシヒカリがJA価格で20,200円(民間はこれより若干高い)となったものの、コンバインの修理など出費も大変だったようです。と言うと、他人事のような表現ですが、我が家もコシヒカリを160アールほど栽培しました。その内、倒伏した田んぼは30アールのみでしたが。この田んぼは、くず米がいっぱいでした。また、化学肥料のみで栽培した田んぼは、この30アールも含めて106アールです。同じように倒れましたが、くず米いっぱい田んぼとは違って、収量も10アールあたり9俵の収量でした。残りの54アールの田んぼは、ぼかし肥料(放線有機)での栽培です。

ここは倒伏することなく、なびく程度でした。ここも9俵の収量で、一等米でした。確かに、7月の天候は気温が高く、雨降りの天候だったので稲丈が伸びたことは事実ですが、化学肥料に頼った栽培にも課題があったようです。

稲づくりも高齢化が進み、省力化(肥料も田植時の一発肥料など)が待たなすです。手間がかかる作業はできなくなつて来ているのも事実です。若い担い手の育成が必要です。今回の選挙で農家への直接支払いも議論されました。人の命を養う農業で生活できるようにすること、政治の最も大事な視点です。

(コメ農家からの寄稿)

「介護ノート」 母をみおくって

10月25日に、誕生日まであと2日を残し満97歳で母親が旅たちました。今年の2月から「看取り」に向け「訪問医療(月1回医師が訪問)」「と「訪問看護(毎週1回、24時間体制で臨時的にも対応)」に移行しました。

移行の理由としては、6年前に心臓の「上部大動脈弁狭窄症と(余命2年と)診断(宣告)」され手術はせず投薬で過「していましたが、昨秋に誤嚥性肺炎で入院して以降、退院後から「ブレンダー食」に変えたこともあり、通院などの移動に伴う身体的負担を軽減させるためでもありました。9月くらいから経口栄養剤(エンシユア)も併用していましたが、10月に入りストローで飲む勢いも萎えてきました。亡くなる二三日前からは(栄養剤のみであるにもかかわらず)一日三度の排便があり、もはや身体の機能をコントロールできなくなつてきたなと覚悟していました。「宣告」を受けてからは、少しでも動ける機能を活かしてあげたいと思い、「百円シヨップ」の塗り絵ハガキを書かせ「孫たち」に宛名も書かせ送りました。

私の友人からの求めで「戦争があつたころの話ノート」を書いてもらいましたが、ある日突然止めてしまいました。詰問すると「戦地から病気で戻ってきた兄が、その後亡くなり悲しい思いが込み上げてこれ以上書けない」とのことでした。書き易いと思い「嫁事ノート」にも挑んでもらいましたが、これもほどなく止めました。訳を聞くと「後から見んだべー」とのこと。毎日書き続けられると思い「便所・食事ノート」は9月まで続けました。「ブレンダー食」以前は「こはん・みそしる・やさい・・・」などの記載でしたが、「ブレンダー食」以降は朝昼夜の別、そしていつも「うまかったよー」の記載が続きました。一度だけ「うまくなかったよー」もありました。母は23歳で会津坂下町から我が家に来てくれ、(じいちゃんが40代で亡くなり働き手として早くから農業に就いた)父と共に農業で生きていく基盤を作ってくれました。そんなに働いてきた母ですが、直近の「老齢基礎年金(2カ月分)」は63,000円台でした。これで

施設利用(デイサービスやショートステイ)や介護用品に充てるのは困難、この上ありません。

雨宮処凛さんの著書「死なないノウハウ」は(独り身の「金欠」から「散骨で」「おひとり様」のことだけでなく「親の介護が必要になったら」まで網羅してありますが、「親の看取り」を体験してみても、また同じように私よりも大変な状況にある知人の話を聞くにつれ、改めて「働き手(若い人)」と「働いてきて」リタイアした人(高齢者)との分断された社会であるとの思いを強くしてきました。

いずれは私自身も親のような道をたどるのかと思うと、わずかな期間でしたが、親といっしょに過ごし、ケアマネージャーや介護用品提供会社(介護)施設職員、医師、看護師さんとのやりとりが学べる場であったことに感謝し「介護ノート」の最終といたします。(Y・S 11月9日)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

澄和平和活動賞・受賞報告

講師・神田香織さん

広島県の原爆を課題にした「はだしのゲン」の講演を続けて38年。「音もない光もない暗闇の中」「ただ幾色にも燃え上がる炎と煙の生き地獄」。こんな語りで観客を引き込む。「原爆の実相を力強く描かれた『ゲン』を口演することで戦争のむごさ、平和や命の尊さを表現する。その一念で続けてきた」と話す。

(毎日新聞・10月30日)

「次世代へつなぐ平和より」

福島県いわき市出身。磐城女子高校卒業、東京、

渡辺プロダクションドラマ部を経て1981年に二代目神田山陽の門下となる。

2001年第1次小泉内閣発足後初の国政選挙であった参議院議員通常選挙に無所属、社民党推薦で福島県選挙区から出馬。113,284票を獲得するも次点で惜敗する。

現在、憲法をいかに福島県民の会・呼びかけ人代表の一人でもあります。(事務局)

報告・提言のひろば



■ 310万の戦死者の6割が最後の一年間のものだという点、重要だと思えます。日本の政治の流動化、米国の大統領選挙など、世界がますます混沌としていくようです。

■ 戦没者の大半が最後の一年、この記録は私に摂って貴重な資料です。ありがとうございます。総選挙で社民は現状維持でしたね。来年の参院選はどうなるか、今から心配です。今回も充実した紙面で、ゆっくり読ませていただきます。

■ 今般の選挙、野党が一矢報いましたね問題は野党が何処まで纏まれるかですね。このチャンス是非生かしてもらえぬことを期待しています。

■ 総選挙では南関東比例で一議席をめざしましたが、かないませんでした。比例投票先の数字を比べてみると、れいわは社民党のおよそ4倍の比例票を獲得して9議席となり、参政党もおよそ2倍の比例票で3議席を得ています。比例票の拡大のために我々も懸命にたたかいましたが、この結果を見る限り、今回のように自公に大逆風が吹いている選挙でも、その批判の受け皿になり得ていないということを表しているように思いま

す。メディアへの露出が少なくなり、社民党の政策そのものが市民に伝わっていない、ということもあるでしょう。今回の結果を真剣に分析して、来年の参院選で何をすれば良いのか、徹底した議論と行動が必要になると思っています

■ ほんとに、ようやく秋の陽気ですね。でも、そう思う間もなくもう立冬です。実際、朝晩は涼しくなりました。結局、秋という季節はほとんど無かったのではないかと思います。温暖化の傾向は今後も加速し、地球環境への影響、ひいては人間の生活への影響も増大してゆくと考えると恐ろしくなります。衆院選も終わり、与党は過半数割れとなりましたが、当面自公の政権は継続すると思えますので、大きな期待はできませんが、それでも国会軽視、というよりも国会無視で閣議決定すればなんでも通るといふ状況だけは阻止できるのは大きいと思えます。今後、国会が本当の意味で言論の府として機能するようになるか注視したいと思えます。

■ 総選挙も終わり、結果よりもその後の政治状況に「ガツクリ」です。連合の意向を受けた国民民主党の動きにはうんざりです。政治姿勢も政策も中途半端です。反自民を求める政策は、結局は補完勢力なのでしよう。

ニユースの発行は結成以来継続ができています。結成時の「事務局ニユース」から「OB・Gニユース」にタイトルを変更し210号となりました。その間多くの皆さんからの寄稿を頂き感謝をしております。

新しい年・2025年が、皆様ご家族共々にとりまして良い年でありませうように祈念をいたします。(事務局)